

活動の記録

8月18日(日) 晴

年間計画された主要な活動項目は照度調査とヒメコマツ植林地の
下草刈りでした。必要最小限の人数は確保できたので、滞りなく実
施できましたが、何しろ梅雨明けしたばかりで身体がまだ暑さに慣
れていないので熱中症予防を最優先にしました。そんな訳で千年広
場の竹テーブルを囲んで休憩の時間が多くなりましたが、これも無
駄な時間ではなかったと思います。

懸案の物置小屋の修理または移築について、ナラ枯れした大木の
処理方針、来月の行事のやり方等々ゆっくり話し合えたからです。

今は明確な結論には至らなくても共通の認識が得られればそれも前進と言えるでしょう。(坂本)

参加会員は秋元、新井通子、伊藤、鶴沢、大原、苅米、久我ご夫妻、坂本、福島、細谷、真鍋の12名。



必要最小限の12人参加

○相対照度調査

梅雨明け後の最初の活動として相対照度調査を行いました。広場に集
まり測定機器の操作方法を説明したあと測定箇所を分担し、10:00~
10:40に測定作業を行いました。調査には照度計8台、トランシーバ
4台を使用し、参加者は11名でした。

測定箇所は、コナラ伐採地の20地点(A-1~D-5)と、千年広場、
コナラ更新林の苗畑とヒメコマツ植栽地、岬のヒメコマツ植栽地の計
24地点です。林外の対照とする照度は、障害物がほとんどない橋の上
で測定しました。相対照度は、橋の上の照度を100%とした時の、

各地点の照度の比率(%)です。照度は刻々と変化するので、林内と橋の上で同時に測定するためにトランシ
ーバを使用しました。なお、相対照度はバラツキが大きいため、各地点で4~5回の測定を行い、その平均値
を各地点の相対照度としました。

表1にコナラ伐採地における各測定点の相対照度を、表2にコナラ伐採地(20地点の平均値)を含めた
全測定箇所の相対照度の変化を示しました。コナラ伐採地の相対照度は、最大が50.8%、最小が10.2%、平
均が29.4%でした。測定点ごとに見ると、伐採地の中央部がやや高くなっていました。表2の経年変化では、
2箇所のヒメコマツ植栽地と上記のコナラ伐採地は26~29%と比較的高い値でしたが、千年広場、苗畑は
18%以下とやや低い値でした。(福島)



コナラ伐採地の測定は横1列に5人並んで

表1 コナラ伐採地の相対照度(%) (2021.7.18)

	1	2	3	4	5
A	10.2	16.0	29.9	24.5	24.1
B	29.3	42.2	32.4	35.1	24.9
C	28.1	29.6	50.8	39.5	16.5
D	26.7	32.0	35.7	39.7	19.8

表2 島内5地点の着葉期の相対照度の変化

測定箇所	相対照度 (%)						
	着葉期						
	2015.8.30	2016.8.21	2017.9.18	2018.7.16	2019.7.21	2020.7.19	2021.7.18
千年広場中央	29.7	26.8	33.9	21.1	14.1	22.9	15.9
コナラ更新林の苗畑	8.8	5.7	22.4	13.0	-	12.6	18.2
コナラ更新林ヒメコマツ	43.1	48.5	47.1	41.6	28.8	36.0	26.3
岬ヒメコマツ	33.1	28.3	30.7	37.6	40.8	32.5	28.7
コナラ伐採地	41.9	38.0	45.7	30.7	27.9	21.8	29.4

コナラ伐採地は、20地点の平均値

○センサーカメラ撮影記録（6月20日から7月18日までの29日間）

・吊橋付近のカメラ

キョンが7月11日と12日に記録されました。頭数は不明ですが単独で行動しているように思えます。

CAM1：キョン2回、ニホンジカ4回、ニホンアナグマ1回、ハクビシン9回、不明種2回

・ホコラ山付近のカメラ

ニホンジカは群れて長時間島にとどまっているようです。人の出入りの少ない島では快適なのでしょう。島中央部のセンサーカメラの記録回数がとても多いです。

CAM2：ニホンジカ21回、ハシブトガラス1回、ハクビシン1（秋元）



キョン

○キョン

キョンは中国南東部、台湾に生息しているシカ科の哺乳類で、千葉県に生息しているキョンは移入されたもの。

県内の分布は、令和2年度で17市町（市原市～一宮町より南側）となっており、推定生息数は、令和元年度で約44,000頭（95%信頼区間22,002～75,442頭）、現在も増加傾向にあり、農作物や生態系への被害拡大が懸念されている。

体長は47～70cm、体高は45～50cm、

体重は12～17kg（Wikipedia）で中型のイヌくらいの大きさ。体色は茶褐色で足は黒っぽい（写真は同じカメラで撮影されたキョンとニホンジカのメス成獣冬毛の画像を合成したもの）。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」で特定外来生物に指定されており、飼育、運搬等は原則禁止となっている。（福島）



キョンとニホンジカのメス成獣の合成画像

○ナラ枯れ調査

豊英島で2019年から発生しているナラ枯れの状況について調べています。梅雨明けの暑さのせい、島内のコナラにはすでに葉が萎れ始めているものが確認できました。去年の8月時点で葉が枯れていたものはほとんどが枯死したことから、今回葉が萎れている個体はこのあと枯死する可能性が高いと思われます。その数は現状で30個体程度であり、さらに増加する可能性があります。



ナラ枯れ



ナラ枯れ

なお、2019年に最初に枯死したコナラはかなり腐朽が進んでおり近くを通る場合は注意が必要です。今後、このような危険な枯死木が急激に増えることが予想されますので早急に対応を検討する必要があります。

(福島)

○7月の花と実

・コナラ伐採地

彩りを添えていたのはアキノタムラソウの紫、白っぽい大輪のヤマユリは存在感たっぷりに点在していました。オケラは緑色で虫籠を連想させる蕾をつけ、オオバノトンボソウは数株咲いていました。コバノガマズミの実の頭の高さで赤く色づき始め、チゴユリは足元に丸々とした緑色の実をつけていました。



アキノタムラソウ



ヤマユリ



オケラ(福島)



チゴユリ

・その他の島内 トサノクロムヨウランは林床の暗がりであちらこちらに、シャクジョウソウは1株乾いた崖脇の道にありました。北側斜面の暗く、湿り気のある崖にはクサアジサイが群落をつくっていました。春のような華やかさはありませんがそれぞれ果実(ウツギ、ヤマボウシ、ウワミズザクラ、エゴノキ、アセビ、コナラ等)をつけて実りの秋を予感させます。(秋元)



クサアジサイ



サジガンクビソウ



トサノクロムヨウラン



シャクジョウソウ



コセリバオウレン(福島)

○北斜面探索

ヒナノシャクジョウとホンゴウソウ探するため秋元さんと北側急斜面に降りて昨年の自生地を探しましたが、この日は残念ながら見つかりませんでした。左の写真は斜面に残っていたコセリバオウレンです。(福島)

○ツチアケビ

今年のツチアケビは千年広場南に4株、47個の果実をつけ、ヒメコマツ保護柵内の2株には果実が無く、巨木林保護柵内の2株には小さな果実を3個つけています。その他マダケ林や島入り口には今年はツチアケビはありません。右写真の千年広場南の自生地株はこの日保護金網を撤去しました。野鳥や動物による種子散布を妨げないため。

(真鍋)



ツチアケビ(坂本)

○林内散策-台風被害木とナラ枯れ

台風被害木とカシナガ被害木の処理などに思いを巡らせていたら、林内散策の皆さんを見失ってしまい、一人ぼらぼらしていました。一昨年の台風被害木や太い枝が地上に散乱した景観があちこちに見られ、その片づけや安全確保が大変だなと思いましたが、明るくなった林内では元気なホオノキが目立ちました。（伊藤）



○きのこいろいろ

今回は、テングタケの仲間、イグチの仲間が多く見られました。コテングタケモドキ、アカヤマドリ、ベニイグチ、ノウタケ、カバイロツルタケ？、テングタケ？、ニガイグチ？、ヒトヨタケの仲間など。（福島）



ヒトヨタケの仲間



アカヤマドリ



テングタケ？

○コナラ伐採地の整備

秋元さん・大原さんと新井の3人で、コナラ伐採地に生育する樹木の中で特に経過観察すべきものを残す作業をしました。

伐採した樹種はイヌザンショウ・ヌルデ・アカメガシワ・アセビ・イヌビワ・ヤマウルシなど。また狭い面積なので必要であっても数が多いものは仕方なく減らしました。藪が明るくなって新たな風景が生まれました。

（新井通子）

○ヒメコマツの下草刈り

梅雨明けの朝、好天気の下、軽トラで家内と集合地に向かう。農道を走ると、稲穂が芽を出して、広々とした田園は、美しい景色を呈している。

照度測定の後、広場に近しいヒメコマツ植栽地の手入れをする。苅米さんと草刈り機で、下草を刈り取る。ヒメコマツは良く成長して、2m超になっている。このエリアは、ネットで囲われているので動物の被害にも遭わない。駐車場の草刈りは、6月に刈り取った後なので、大きな雑草は見当たらなかった。（久我哲也）



草刈り機で下草刈りの久我さん



草刈り跡は整然と

○電柵脇通路の草刈り

ダムの堰堤から吊り橋に至る途中で電柵側と山側の両方から草や枝がせり出して通路が狭くなってしまった場所がありました。このままでは車も通りづらいので草刈りをしました。

街の住民なら役所に連絡することを真っ先に考えるでしょうが、田舎の習慣ではこの程度の事は自分で処理するのが普通です。もっと広い範囲なら住民総出の共同作業もあります。

田舎暮らしに憧れて移住する都会人が最初に戸惑うのはこんな点だろうなと思いながら刈りました。（坂本）

○ヤマユリの不思議

コナラ伐採地にヤマユリが咲きました。勿論、球根を移植したものでなく、風に乗って飛来した種子が芽生え、数年かけて着花できるまで成長したものです。昼食後の一時、花を愛でながら観察すると不思議に思う事が沢山ありました。

なぜ大きく重い花を支えるには茎が細すぎて不安定なのか？

なぜ花粉が衣服に付くと洗っても落ちにくいのか？

なぜ雌しべ雄しべはあんなに前方へ突き出しているのだろうか？

なぜ花粉の袋（葯）は雄しべの先端にぶら下がってブラブラ動くのだろうか？

花弁を揉むと表裏が離れるので息を吹き込んで風船のように膨らまして遊そべるそうです。当日、数人で試しましたが上手くできませんでした。

♪何でだナンデダロー?? テツ and トモが歌い出しそうでした。（坂本）



ヤマユリの花を愛でながら観察



コナラ伐採地で何を観察？

ツチアケビの撮影・観察

充分な休憩時間に色々相談

休憩用いすにきのこ

(次ページに続く)

お知らせ

○次回の活動日は8月8日（日）です。

夏のきのご観察会を予定しています。なお、活動計画では公開行事としていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に加えて、台風やナラ枯れにより島内に危険な場所が増えており参加者の安全確保が難しいことから、公開行事としては実施しません。

体験参加は通常どおり受け入れますが、ヘルメットの着用など安全対策をお願いします。

集合は、清和自然休養村（直売所）に9:30です。厳しい暑さが予想されますので、無理をせず熱中症対策を万全にしてご参加ください。ヘルメットをお忘れなく。

○新会員の紹介

東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授の鈴木牧（まき）さんが入会されました。

豊英島でシカとナラ枯れが森林の更新に及ぼす影響を学生さんと一緒に調査したいとのことです。よろしくお願いたします。

松山会員から会員の皆さまへ

会員の皆様、ご無沙汰しております。東京大学大学院の松山です。今年度の4月から北海道立衛生研究所の研究職員として勤務することとなりました。大学院には引き続き在籍して、博士号の取得を目指しています。本当は活動日にご挨拶に伺いたかったのですが、勤務地が札幌になったことや新型コロナウイルスなどもあり断念いたしました。今回は、簡単に今の仕事内容と千葉県におけるマダニ媒介性感染症の現状についてご紹介させていただきます。

1. 仕事内容

マダニ媒介性感染症と衛生害虫の検査を担当しています。マダニ媒介性感染症の検査は、コロナでお馴染み？のPCRを行っています。衛生害虫は種類を形態的特徴に基づいて判別することで、防除対応をサポートしています。今は初めてやることばかりで、仕事を覚えるのが大変ですが、楽しく過ごさせていただいています。

2. 千葉県におけるマダニ媒介性感染症の現状

今年、千葉県で初めてSFTSというマダニ媒介性感染症が発見されました*。この感染症は西日本で流行している感染症で関東ではこれまで感染被害の報告はありませんでした。一方、昔から千葉県で発生している日本紅斑熱は全国的に患者発生数が増加しています。これらの感染症の対策は、マダニに咬まれないことです。今までマダニに咬まれたことがない私からアドバイスできることは、森や藪に入ったときに、こまめに体にマダニが付いていないかチェックすることです。マダニは蚊のようにすぐに吸血しないので、皮膚を咬む前のマダニを発見できれば安全に除去できます。マダニに咬まれた場合は、自力でマダニを除去せず速やかに皮膚科を受診することをおすすめします。

*正確には、2017年にマダニ媒介性感染症である日本紅斑熱の疑いで保健所に送られた血液を再検査したらSFTSが発見されたいです。（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/sfts/sfts-iasrs/10449-497p02.html>）

豊英島で調査することになった私の恩師である鈴木先生は、樹木やシカが専門なので、色々なお話が聞けると思います。引き続き、研究室のメンバー共々よろしくお願いたします。（松山弘之）